

昨今の研究助成事業について

当財団の研究助成事業は、1988年の当財団の設立と共に開始され、水棲の無脊椎動物に関する独創性ある研究の発掘・育成・促進を目的として、研究者個人や学生に対して助成を行ってきています。2021年度で30回目となり、累計助成数253件、助成総額約2億6千万円となっています。ここでは、近年の研究助成の状況や実施内容などをご紹介します。

研究助成の応募と交付状況

この5年間で安定して毎年計80件ほどの応募があり、過去25年と比べると、約1.5倍になっています（表1）。採択率は17%前後で、毎年、継続も含め16件程度約1500万円を交付しています。また、海外に在住する個人の研究者や日本に在住する留学生からの応募もあり、助成に至った課題もあります。このように、他機関から助成を受けにくい方などへも助成しています。

申請書について

- 評価を行う委員は、水棲動物研究分野の第一人者を中心に構成されていますが、必ずしも課題の対象生物の専門ではない場合があります。背景や目的などは分かりやすく、調査や実験の計画は具体的な記述をお願いします。
- マイナーな分類群や新規性の高い研究へも助成しています。評価の際に伝わりやすいよう、独創性やその研究の面白さも伝えてください。
- 当助成は1年ないし2年間で行われる研究を対象として

います。期間内に実施可能な研究計画を立てていただくようお願いしたいと思います。

実施後の報告書について

報告書も専門委員会で評価を行いません。よい成果があるにも関わらず、論理的に書かれていない報告書もあり、残念との意見も挙がることがあります。2020年度から評価コメントは、助成者へフィードバックしています。

コロナ禍での助成課題の実施

2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の影響により、研究活動に様々な困難が生じています。この状況下においても助成者の皆さんには課題を進めようと工夫をしていただいております。事務局としても延長や実施内容の変更などに柔軟に対応しています。

また、新型コロナウイルスに限らず、フィールドでは、特に近年、台風や気象など様々な要因で調査が中断する事例が生じています。そうした対応も念頭に入れた研究計画が、今後求められるかもしれません。

今後に向けて

当助成では、今後もこの分野の研究を応援し、より活発に、発展していくことを願っています。当財団の財源のほとんどは寄付金と会費によりまかなっておりますので、今後も安定した研究助成を行うため、引き続き皆さまからのご支援とご協力をいただけますと幸いです。

(助成担当 片山 英里)

表1 近年の研究助成の状況

		2016までの平均*	2017	2018	2019	2020	2021
応募数	個別	34	40	63	63	63	48
	育成	19	19	15	21	19	29
	合計	53	59	78	84	82	77
採択数 (採択率)	個別	5 (16%)	9 (22%)	12 (19%)	11 (17%)	11 (17%)	9 (17%)
	育成	2 (13%)	4 (21%)	3 (20%)	3 (14%)	3 (16%)	4 (14%)
	合計	7 (15%)	13 (22%)	15 (19%)	14 (17%)	14 (17%)	13 (17%)

*1995年の現行形式以降

編集後記

113号の表紙はモザイクウミウシ *Halgerda tessellata* です。学名の *tessellata* はラテン語で碁盤の目という意味があり、和名の由来になっているようです。海の中で目立つのではないかと疑問に思うぐらい鮮やかですね。

2021年もいよいよ年末となり、新年を迎える準備で忙しい時期になりました。2022年には、再び観察会を開催できればと願いながら計画しております。